

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0194600466		
法人名	社会福祉法人 慧誠会		
事業所名	帯広けいせい苑グループホーム りんごの木		
所在地	帯広市新町西6丁目55		
自己評価作成日	令和2年1月10日	評価結果市町村受理日	令和元2年4月3日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigyosyoCd=0194600466-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	札幌市北区麻生町5丁目2-35コーポラスひかり106号		
訪問調査日	令和2年2月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームりんごの木として、今年度で3年目になります。昨年度はブラックアウトを経験し水害時を含めて対応マニュアルを見直し、その実践を行いました。異常気象などがもたらす災害はいつ起こるか分からない。災害時に強い施設は、日常も強いと言えます。施設の体力をつけていけるようにを日々心がけています。又我々が行わなければならないことはいつも変わりません。それは「人」が「人」である以上、気持ちに寄り添い利用されている方々、そのご家族の為に真の支援を追究していくのみです。その中で地域で活動させていただいていることに感謝して運営をしていきたいです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所はJR帯広駅に近い新興住宅地にあって、近くの帯広川河川敷の堤防は、桜や木々の緑を楽しみながらの散歩コースになっている。母体法人は多くの福祉施設などを運営し、職員指導、教育も行き届き、法人で合同職員会議を行って情報交換を綿密に行い事例を共有して質の高いケアに努めている。木造平屋建ての事業所は全居室東南向きで明るく、共用空間は清潔で、温・湿度も適正に管理されており、壁には季節感ある飾りつけ等が飾られる等、家庭的な雰囲気を醸し出している。利用者の表情は非常に明るく穏やかであり、日々の共同生活の楽しさが滲み出ている。町内会へ加入し、散歩や買物時などで近隣の方々と挨拶を交し交流を深めている。また、運営推進会議や避難訓練にも地域住民が参加し常に密接な連携を保っており、帯広川沿いにある事で水害を想定した避難訓練も実施している。地域の短大社会福祉士実習生の研修を受け入れて協力関係を築いている。看取りへの取組みについても前向きで、日頃から医師の指導支援を得て態勢を整えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
	○	○		○	○
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念をもとに年度計画を立て、ただひたすらに利用者・家族の為に我々がいること、地域といった視点を忘れずに実践に当たらせて頂いています。	独自の理念を玄関に掲げ、職員は会議や申し送り時によく理解しながら、日々のケアに繋げている。毎年職員を交えて見直しをする事になっている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者との散歩中、近隣のかたとの挨拶や隣、迎えの方との日々の挨拶や会話、なじみの場所を訪れる等を日々より行っております。	地域の一員として町内会に加入している。町内の行事に参加したり、散歩時や買い物時などで住民に挨拶しながら交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々とは直接お話する機会は今年度はあまりありませんでしたが、入居申し込みの方やご利用されていた方のご家族とのお話の中で、方法などをお伝えする場面は、有りました。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ヒヤリハットの報告や不適切介護が無いかの確認を含め、日々の活動・ご利用者の一人一人の思い等、2か月に1度ではありますが聞いて頂き、また意見を頂戴して日々生かしています。“あることすべて”を旨にしています。	年6回開催し、町内会会長や地域包括支援センター職員、家族代表などが参加して、利用状況・入退所の有無・活動内容報告・身体拘束が無い事の確認等を報告し、意見や助言を得て運営に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	今年度は、特に各課の方々のご協力を得て、ご利用者自身の生活を守る実例が有りました。今後も密とはならないかもしれませんが、必要なことを必要に報告・連絡・相談を行っていきたく思います。	市担当者とは運営や事故報告を行いながら、指導や助言を得ている。生活保護受給者の利用相談についても助言を受けながら対応に反映させている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	不適切ケア・不適切な話し方等、日々から職員同士でチェックし合い、ケア理念に向かってケアを向上させていくことを旨に日々当たっています。	身体拘束委員会活動は2ヶ月毎に実施しており、身体拘束の弊害や具体的禁止行為、不適切な言動について正しく理解している。徘徊等外に出たい利用者には付き添って歩く等、利用者が落ち着くよう見守っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	今年度は各研修の中でも2回虐待防止の講演を聞いて会議等で報告し合い又、会議等での不適切ケアの予防に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に今年度は、後見人制度を利用される方がいらっしやり書面ではわからない実際の流れ等、実践を踏まえて支援させていただきました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書や料金表、個人情報保護の取り組みや自立支援の取り組み等説明を行いながら契約書を締結させていただいています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来られた際やお電話などで、近況含めてご報告・ご相談させて頂いています。ご利用者には、この事が本文であるため日々生かしていけるよう努めています。	利用者からは日常の会話や生活の中で、家族等からは来訪時などに意見や要望を聴くよう努めている。家族からの要望等は連絡ノートに記載し、会議等で検討し運営に活かしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議など施設長、施設長代理、管理者が入り会議を行っています。又普段から管理者は利用者と一緒に活動して職員皆で日常の会話から活動して生活を作っています。	日頃から話しやすい雰囲気作りに努めるとともに、会議等で意見や提案等の話を聴くようにし、出された提案等は運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日頃より、利用者に対する職員のケアや会話などを共に楽しくしていることが重要と思われ実践しています。なんでも言いやすい仲であることも重要と思っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修の実施。事業所以外の職員とコミュニケーションを図る機会の確保など行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	最近の研修ではディスカッションや会話を持つ機会が多く参加することで、研修内容以外の実践の話など、大に行えていて、生かせることを実践に生かしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始時に置いては、まさしくこの事に重点的アプローチを行わせて頂いています。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	当初のご要望もさることながら、ご家族との信頼関係を構築し続けていくことを大切に日々努めています。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回の面接などで、ご本人の状況や必要な介護等、当ホームでの生活に必要なことを収集し、スタッフ全員での共有に努めています。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯や家事、買い物等「生活」をされているのは、誰であるかを常としています。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用されている方にとって大切なご家族を我々も大切に信頼関係構築に努めています。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	ご本人の思い入れのある場所に訪れる等行わせていただいています。	職員は利用者との日々の会話や家族等から話を聴き、利用者が築いてきた馴染みの人や場所を把握するよう努めている。利用者の希望を家族に伝え、馴染みの場所、思い出の場所への外出を家族と協力しながら支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居間で利用されている方同士、頭を寄せ合い、うたた寝されるというようなことに代表される様なことを大切にしています。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご利用されていた方のご家族様が、使わなくなったタオル等を下さったり、お話をしたり我々が感謝させていただいています。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	叶えることが現在で困難な場合も常にご本人の意向はどこにあるかを中心として支援させていただきます。	日頃の会話から思いや意向の把握に努め、得られた情報は職員全員で共有し、利用者の思いに応えるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今まで生きてこられた中での思い出等、会話から思い出された事など把握をするのみにとどまらず、そのことが生かされるように努めています。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	笑顔に代表される心と体の元気を大切に支援を行っています。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	大切にしなければならないことは何か、そのことを達成させるために必要な支援は何か、誰か一人が出来ればよいものではなく、全員で当たらなければ達成されないことを日々から行っています。	介護計画は利用者や家族等の意見や要望、職員の意見を取り入れて、計画作成担当者が6ヶ月毎に介護計画を作成し、家族の確認印を得ている。状況に変化があればその都度見直すこととしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録から体調等もデータとして現れる為、それにより必要なことの実践に当たらせていただいています。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	当法人には様々な職種が存在する為必要時の相談を行っています。多機能化の幅は少しずつの進捗です。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	様々な情報から、利用されている方が楽しみそうなことを提案させていただいています。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	看護師の健康の把握から適切な通院、ご家族へのご相談を行っております。	かかりつけ医受診の継続を支援している。基本的には家族対応での受診になっているが、職員が付き添い受診することもある。受診結果は、受診記録や介護記録、申し送りノートに記載し情報の共有に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	NO・30同様に行わせていただいています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	今年度は(12月末現在)入退院がありませんが、医療相談室や医療連携室などの方を中心にやってまいります。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	指針の説明を行い同意を頂戴しています。担当医の見解があった場合などもご本人・ご家族としっかりと話し合い必要な支援を行います。	入所時に利用者、家族に「重度化した場合における対応に係わる指針」に基づき説明し同意を得ている。看取りに対する取り組みを行っているが、看取りの現場を担当する職員について、研修などを通して精神的なケアや心構えを学んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応などは職員会議で再確認し、危険予測など日々からの共有に努めています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昨年度見直した水害時などの避難マニュアルを訓練として実施いたしました。今後も定期的の実施いたします。	年2回消防署立ち合いの避難訓練を夜間想定含めて年2回実施している。帯広川が隣接しており、水害対策が求められている。運営推進会議でも、災害について話し合いをしている。災害による停電時には近隣の会社より、発電機の貸し出しの提案が出ている。	「社会福祉施設等における非常災害対策計画の策定の手引き(改訂版)」(令和元年7月北海道保健福祉部)が公示されており、ここ最近の異常気象が台風や豪雪などの大きな災害に結び付く事もあり、マニュアルや避難経路などの再度の見直しを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	当たり前に行われていなければならないことと実践に努めています。	日々の接遇時に利用者の尊厳を損なわない様にし、同じ目線に立ちプライドを傷付けないケアを心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	当たり前に行われていなければならないことと実践に努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常にご本人にとっての支援でなければならない為、我々の都合が優先されないよう努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	おしゃれもそうではありますが、「自分らしくある」ということを大切にしています。		

帯広けいせい苑グループホーム りんごの木

自己評価	外部評価	項目	自己評価			外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	味見などもそうですが、台所から香ってくるご飯の香り家に当たり前にあること「食」という大切なことを重要視しています。	利用者の能力に応じて、準備や後片付け等を行い、職員と一緒に食事をしている。利用者の希望を聞きながら、季節食や誕生食、外食に出かける等、食事の支援をしている。				
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	何より大切なことは「美味しく食べる」ことです。そのことにより、おのずと必要なことはクリアされると考えて実践させていただいております。					
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	各居室に洗面台が設置されていますので、食後の口腔ケアを実践しております。					
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	上肢・下肢体操を行い、又必要な方へはトイレへの適宜お声掛け、お誘いを行い、トイレでの排泄を常としています。	利用者個々の排泄パターンをチェック表で把握し、さりげない促しや言葉かけを行ないトイレでの自立排泄の支援を行なっている。				
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	オリゴ糖・ヨーグルト等を活用して便秘の解消に努めています。					
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	お風呂に入るまでが億劫な方へは、その気分が解消されることを大切にしています。「入ろうかな」という気持ちを大切に柔軟に対応させていただいております。	週2～3回入浴実施しているが、希望によってはいつでも入浴できるよう支援している。嫌がる場合には時間をずらす等、タイミングを計りながら再度声かけをしている。				
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	心地よく眠れることは重要です。あたり前に安眠して頂ける支援を続けて行きたいと実践に当たります。					
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	特に副作用等が疑われる場合には看護職員中心に相談し必要な通院等行って改善に努めています。					
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人お一人全員にいつも出来てはいませんので、その幅を広げる努力を忘れず実践に当たります。					

帯広けいせい苑グループホーム りんごの木

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご希望でも出かけていますが、スタッフからも買い物やドライブ等お誘いさせて頂いています。	日常的に買い物や散歩を行ない、ドライブで遠方に出掛けたり、家族同行の外出など利用者の希望に応じた外出支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の了承のもと、施設立て替えて、対応させて頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お手紙をやり取りされている方は、現在はいらっしゃりませんが、ご希望があれば対応させていただきます。お電話は、時間帯にもよりますが、お繋ぎいたします。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	物的環境も心地よく大切にしています。我々職員も利用されている方にとって重要な環境であることを念頭に日々当たらせていただいています。	日差しが入る居間兼食堂は温度・湿度管理がされ、共用空間には季節感ある飾りつけや家庭的な雰囲気を醸し出している。調理室や事務室からは利用者の動向が見取れるため、利用者の安心安全に心がけている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	皆が共有するスペースでは配置の工夫もさることながら、自身の存在が大切にされていると実感できるように努めています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	「自分らしくいれる」ことは重要なことと大切にさせて頂いています。	清潔感ある居室には備え付けの洗面台があり、馴染みの家具や家族の写真等が飾られて、落ち着きのある雰囲気を醸し出している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来そうであること、分かり易いことも支援させて頂きたいと努めています。		